

東京工芸大学大学院工学研究科2年生、 井尻歌衣さんがJIA大学院修士設計展2024で最優秀賞を受賞

東京工芸大学（学長：吉野弘章、所在地：神奈川県厚木市、以下本学）の大学院工学研究科2年生、井尻歌衣さんの修士設計作品「私の記憶のヒロイックフレーム ―建築空間体験による記憶の設計―」が、第22回JIA関東甲信越支部大学院修士設計展2024で最優秀賞を受賞しました。



「私の記憶のヒロイックフレーム ―建築空間体験による記憶の設計―」

JIA大学院修士設計展は2003年に開始された、全国でも数少ない修士設計のコンクールです。井尻歌衣さんの修士設計作品「私の記憶のヒロイックフレーム ―建築空間体験による記憶の設計―」は、その斬新な設計手法とそこからつくり出される魅力的な建築空間が高く評価され、この度最優秀賞を受賞しました。

審査は3月15日（金）に行われ、建築家の岸和郎氏による一次審査で52作品の中から8作品が選ばれました。二次審査では、選出された8名の発表者が模型を用意し、PowerPointを使用したプレゼンテーションを行い、岸審査員及び実行委員会のメンバーとの質疑応答が実施の後、最優秀賞3名、奨励賞5名が決定しました。5月1日からは支部ホームページで応募作品全作品がWeb上に掲載される予定です。

井尻さんの受賞作品は以下のとおりです。

【私の記憶のヒロイックフレーム ―建築空間体験による記憶の設計―】

- ・受賞者：本学大学院工学研究科建築学・風工学専攻博士前期課程2年井尻歌衣さん
- ・作品名：「私の記憶のヒロイックフレーム ―建築空間体験による記憶の設計―」

本リリースに関するお問い合わせ

学校法人東京工芸大学 総務・企画課 広報担当 TEL:03-5371-2741 MAIL:university.pr@office.t-kougei.ac.jp

・作品概要:「故人である父の存在を感じさせる住宅を設計しました。この作品は、父が遺した家族写真を「父の私へのまなざし」として捉え、これをもとに家族の記憶を形にする設計を試みました。具体的には、過去の写真から抽出した空間的な断片を現在の実家に組み込むことで、父との記憶を蘇らせる新しいリノベーション手法を採用しました。このアプローチは、「記憶の設計」という概念を体現し、施主の未言語化された感情やパーソナリティを設計に結びつける方法を探求するものです。」

・本人コメント:「私の中の父の記憶を扱った作品で、非常に個人的なテーマであるが故に研究としてふさわしいのかも含めて迷った時期もありました。それでも建築を志す上では避けては通れない主題でありそれが理解されたことが嬉しいです。制作を後押ししてくれた母と共に受賞の喜びをかみしめたいと思います。」

本学は2023年に創立100周年を迎えました。1978年に設置された本学大学院工学研究科は、最先端の研究活動に不可欠な最新の装置と設備を備えています。本学は今後も、この探究フィールドを活用し、幅広い視野と豊かな独創性を兼ね備えた高度な技術者や研究者へと育成していきます。

4. 手法「記憶の設計」の提案



記憶の設計手法 (修士論文より抜粋)



「私の記憶のヒロイックフレーム —建築空間体験による記憶の設計—」



「私の記憶のヒロイックフレーム —建築空間体験による記憶の設計—」

■第22回JIA関東甲信越支部 大学院修士設計展2024
 【URL】 https://www.jia-kanto.org/kanto/activity_event/competition/11384.html